

令和2年度 第1回静岡市中小企業・小規模企業応援会議 議事録

開催日時	令和2年4月27日（月） 10:00 ～ 12:00
開催場所	オンラインによる開催
出席委員 ※五十音順	青山達弘 座長、稲葉豊穂 委員、大谷裕紀 委員、高橋節郎 委員、 竹内佑騎 副座長、手塚光里 委員、中野真吾 委員、仁王尚夫 委員、 松下恵美子 委員、八木邦明 委員、山崎かおり 委員 （11名）
欠席委員 ※五十音順	佐藤由貴 委員、仁科満寿雄 委員、 深田浩介 委員、矢部田久幸 委員 （4名）
静岡市出席者 （事務局）	松浦康弘 課長補佐兼企画係長、福與敬太 主任主事

1 開会

- ・開会に当たって、以下3点について確認を行う。
 - ①委員の出欠席状況について
 - ・委員の過半数（15名中11名）が出席していることを報告。
 - ②会議の公開について
 - ・委員から本日の会議について公開の了承を得た。
また非公開とすべき事項が生じた場合は、その都度協議することを報告。
 - ③会議録の作成について
 - ・会議録を作成し、市ホームページで公開することを委員から了承を得た。

2 青山座長 挨拶

3 自己紹介

※開会前の諸確認の際に実施したため、省略。

4 議事

（1）意見交換

議題：新型コロナウイルス感染症に係る各企業や各業界の現状について

<山崎委員>

【現状等について】

- ・製造業は徐々に影響が出始めており、売り上げの方も4月までは何とかもっているが、5月、6月と影響が出てくるのではないかとと思われるので対応をしている。
- ・行政へのお願いとして、雇用調整助成金の上限額を無くしてほしい。

<手塚委員>

【現状等について】

- ・緊急事態宣言以降、製造部門以外は各部署で在籍率30%未満にするよう対応をしている。
- ・3月まではまだ良かったが、4月、5月は工場を止める対応が出ているため、売り上げが当初予定より落ちるのではないかとみている。

- ・調達部門としては、地場の協力企業に対する資金繰りをケアしていこうと考えている。

<高橋委員>

【現状等について】

- ・中小企業支援センターでは静岡県、静岡市の制度融資の受付を行っているが、この制度融資は利子、保証料がかからないため、3月下旬の実施から申し込みが殺到している。
- ・当センターでは色々な窓口相談を受け付けているが、持続化給付金や特別定額給付金に関する問い合わせも増えている。雇用調整助成金も含め、どういう質問がきたら誰のところに行けばいいか、窓口等をはっきりさせてもらえるとありがたい。

<松下委員>

【現状等について】

- ・中小企業家同友会では、静岡県全会員対象、静岡市会員対象のアンケート調査を行った。売上げの減少に関しては、3月は業種によっていたが、4月に入ってからほとんど全ての業種が減少となった。「会社の継続と雇用を守る」ために各社努力をしているが、給与や固定資産税、厚生年金、家賃等への支援を求める声も多かった。
- ・同友会の中で様々な業種の応援をしている。例えば飲食業（店舗だけではなく、製造、流通など食品関係全てになるが）を応援しようと、会員内ラインで情報交換をしている。

<稲葉委員>

【現状等について】

- ・1月29日から相談窓口を開設しており、最初は資金繰りが多かったが、雇用調整助成金や持続化給付金に対する受付手順やどこで対応できるのか等についての質問が増え、内容が徐々に複雑化してきている。
- ・商工会議所の緊急対策として、マル経資金という小規模事業者向けの融資制度があり、コロナ資金という別枠が設けられているため、受付件数が急増している。

<八木委員>

【現状等について】

- ・学校は休業中だが、対応は学校ごとの裁量で行っており、静岡市内は週一回、半日の登校日を設け、時差登校を行っている。一年間で学ばなければならない学習内容が示されており、どう網羅していくか、いかに探求型の学びにしていくか、先生方は非常に苦慮している。
- ・オンライン化やICT教育は日本全体で遅れており、その借金が今、如実に表れている。全国的にSNSやZoomで実践教育が行われ、試行錯誤を繰り返している。

<仁王委員>

【現状等について】

- ・労働者福祉協議会が出勤中止のため、自分の組織である三菱電機の対応について報告をさせてもらうが、エアコンと冷蔵庫を作っているが、どちらも据付業者や運搬業者が家の中に入って設置するため、感染拡大の懸念から他人が家の中に入るのを嫌う傾向があ

り、直近になって出荷として落ちている。

- ・営業や設計の間接職場は、7割と言わず、極力在宅勤務をするように会社の方も奨励している。生産現場の方は在宅勤務ができないため、ソーシャルディスタンスを取り、ラインのスピードを落として対応をしている。

＜竹内副座長＞

【現状等について】

- ・当社の状況で言うと、2月頃からまずはインバウンド観光の宿泊からストップし、その後、大企業の宿泊がストップし、現在はほぼない状況になっている。
- ・飲食については、3月に歓送迎会が始まったタイミングで全て自粛という形になったので、当社も含めて9割以上の減となっている。休業協力金や雇用調整助成金はあるが、大きいのは家賃など固定費であり、業界としては固定資産税の免除や水道料金の免除など、行政で管轄して動いているものに対して陳情を行い、一部認められたところもある。

＜青山座長＞

【現状等について】

- ・当社は建設会社から仕事を請ける屋根板金工事業とホテルや工場から請ける建築業、建設業の2つを行っている。建設業は影響が後からやってくるという話をしていたが4月に入って緊急事態宣言が出てからは仕事が少なくなりつつあり、不安が広がっている。
- ・会社としては、次亜塩素酸ナトリウムと発酵アルコールを全社員に配布したり、一時金を支給したりして、自分の健康や命を守ることを優先させた。

＜中野委員＞

【現状等について】

- ・飲食やサービスといった日銭商売といわれる業種の方々にまず直接的な資金繰りの影響が出ているが、それ以外のいろいろな業種にも派生してきている。融資申込が殺到している状況で、各支店で受付をして申請をするという実行までの業務に忙殺されている。
- ・雇用調整助成金は基本的に手続きが煩雑であり、社会保険労務士への委任が考えられるが、抱えているクライアントへの対応で手いっぱいであり、新規クライアントへなかなか手が回らない状況となっている。

＜大谷委員＞

【現状等について】

- ・中央会では、いろいろな企業から経済支援等についての相談が来ており、加えて協同組合の運営についての相談が増加している。「企業が困っており、組合としてもどうしたらいいのか」、「組合の意思決定をする総会がこういう状況で開くことができない」といった相談が、日に10件以上寄せられており、実情に応じて解消に向けた手伝いをしているところである。
- ・雇用調整助成金についての相談が多く寄せられているが、受給要件や必要書類等、入口部分での相談が非常に多い。社会保険労務士に実務的に相談していきたいという話も多くあるが、なかなか社労士が忙しいということで戸惑っている。

- ・組合の共同施設も含めて、施設等の賃料の支払いが待ったなしでのしかかっているため、解消策、打開策がないかという要望が非常に多くある。

◆青山座長から事務局へコメントを依頼。

＜事務局＞

- ・経済部門では、「資金繰りの確保と雇用の維持」を大名目に対策を打っており、その後の経済のV字回復という中で「いかに経済を立て直すか」を考えてきたが、緊急事態宣言以降、まずは「いかに感染拡大を防止するか」というところに注力している。
- ・協力金は、「感染拡大を防止する」という「公衆衛生上」の施策である。「経済の支援」は業種ごと、ステージごと変わってくると思うが、このような会議を通じて意見を伺い、施策をタイムリーに打っていきたいと思っている。

◆青山座長から、以下の提案が行われる。

- ・今後も今回のようなウェブ会議の形式で開催していきたい。
 - ・今回のような定期開催の会議だけでなく、情報交換会等もウェブ会議を利用して不定期開催していきたい。
- ※上記2点について、委員からの了承が得られたため、今後は上記のような形で本会議及び情報交換会等を行っていく。

◆竹内副座長によるまとめ。

- ・アフターコロナも一緒に考えていかなければならない。今までは「業界内での連携」が主だったが、今は地域全体が傷んでいるので「業界をつなぐ」ような連携が出てきている。こういった「横連携をつなぐ」という今こそ「地域一体となる」という意味では、非常にいい形だと思うので、「しずおか愛」を強める機会にできたらいいと思う。
- ・一方でコロナに対する対応としてスピード感が求められており、青山座長と協議をし、今回の会議を開催した。今はコロナの影響で延期をしようということがほとんどだが、今求められているのは逆ではないかと思う。分からないけれど決めて進むことが大事なはずである。一步を踏み出していこうというようなことがこの会議の本質だと思うので、一步進む方向に次回の会議を作っていけたらと思っている。

＜青山座長＞

- ・ジョン・F・ケネディが言った「国が何をしてくれるのか求めるのではなく、我々が国のために何ができるか」のように、ベースは「我々に何ができるのか」というところにあると思う。企業家としては、今は生き延びなければならないが、「何が我々にできるか」というところに視点を移していけたらと思う。

5 その他

特段なし

6 閉会